

ひびき

教育目標:「なかよく かしく たくましく」

－ 一人一人を大切に「風通し」のよい学校－
多治見市立共栄小学校 R.5.6. 1

「みんなちがって みんないい」

－ 自分の周りの仲間、そして自分を大切にできる子どもたちを目指して！－

校長 加藤 隆史

去る5月26日(金)に劇団「風の子」さんをお迎えして「ユエと瑠璃色の石」という演劇をみました。大人数が一度に介して、こうした鑑賞会を実施できるようになったことを感慨深く感じながら、素晴らしい演劇に引き込まれました。

調理実習や学校探検などのグループの学習、交通安全教室や救命救急講習といった学年での行事も、コロナ禍前のようにできるようになりました。うれしい限りです。

こうした全校や学年の活動については共栄小のHPに毎日アップしています。ぜひ、ご覧ください。



私と小鳥と鈴と

金子 みすゞ

私が両手をひろげても
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地面を速くはしれない。
私がからだをゆすっても
きれいな音はでないけど
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄はしらないよ。
鈴と、小鳥と、それから私
みんなちがってみんないい。

さて、金子みすゞさんの詩「私と小鳥と鈴と」を皆さんも一度は読んだことがあるのではないのでしょうか。この詩には、鈴と小鳥と私がそれぞれの特色をもって生きていることの素晴らしさが表現されています。

それとともに、この詩の終わりの「鈴と、小鳥と、それから私」という一節に深い意味があると私は考えます。鈴という「もの」、小鳥という「生き物」を私という「人」と同じか、それ以上に大切にしようという思いを、この一節で表現しようとしたのではないかと私は思います。

「鈴(もの)や小鳥(生き物)、それぞれに『よさ』がある。だから、私にも『よさ』がある。鈴、小鳥、それから私どれも大切な存在だよ。」というところから「みんなちがって、みんないい」という言葉が生まれたのではないのでしょうか。

人というのは、ときに「みんなと一緒になくてはならない」という同調意識で行動してしまい、「みんなと一緒に」でないことに対して、軽はずみな言動で、相手を傷つけたり、悲しませたりすることがあります。そんなとき、この詩のように一人一人の存在価値、そして自分自身のよさに気づかせていくことが何よりも大切です。

この6月はすべての学級で、それぞれの発達段階に合わせて「お互いにちがいを認めよう」ことの大切さについて考える道徳や学活の授業を実施する予定です。こうした「お互いのちがいを認め合い、仲間も自分も大切にできる心」を育てていくことは今年度の本校の重点の一つです。こうした心を育てることが、共栄小学校のすべての児童が自分のよさを発揮して安心して学べる学校になるものと信じています。